

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 大槻能楽堂
公演団体名	公益財団法人 大槻能楽堂

内容
<p>能楽師数名が訪問し、子供達と交流します。</p> <p>① 能についてのお話</p> <p>② 謡体験 能楽の基本となる謡を体験。 能「舍利」の曲中から抜粋した一部、または開催校の校歌にフシをつけ謡にアレンジしたものに挑戦。謡を身近なところから学んでもらいます。 (本公演では代表者を選んでもらい、舞台上にて発表会を開催)</p> <p>③ 能の小道具作成(オリジナル能面制作) 「能楽」の代表的な小道具である能面を、専用紙を用いて、子供達の自由な発想で本公演の演目「舍利」に登場する能面、小道具を作成。 能面は能楽師によるレクチャーを受けた上で、子供たちの自由な発想で色を塗ります。作成過程では、能楽師も生徒の輪に参加することにより、子供たちと交流も図れます。作成した小道具は、後の型の体験に使用いたします。</p> <p>④ 型の体験 完成した能面をつけ、能の動き「型」などを体験。 子供たちには日常生活ではしないような型を行うことにより、舞台上で能楽師がどのように動いているのか、実際に体感してもらいます。 紙製の能面をつけ、どのような視界で演者が舞を舞い、舞台上に立っているか実感してもらいます。</p>

タイムスケジュール(標準)
40分前(準備)
50分(能楽についての説明・謡の練習)
60～90分(能面作製・記念撮影)
15分(片付け)

派遣者数	
主指導者 1名	
補助講師 3名	
スタッフ 1名	計 5名

学校における事前指導
事前学習なしでも楽しめるようプログラムを組んでいますが、 子供達が当日の能楽ワークショップをスムーズに楽しく学べるように 学校の先生に資料などを送付し、ワークショップの内容、本公演の内容を 充分理解してもらおう。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 大槻能楽堂
公演団体名	公益財団法人 大槻能楽堂

演目

初めての能楽 能「舍利（しゃり）」鑑賞会

- 1 部 ◆はじめての能楽
 - ▶オープニング演奏
 - ▶能について（DVD鑑賞）
 - ◆生徒と共演！能でつかうあれこれ！（能面・小道具・能の登場人物紹介）
 - ◆謡ってなあに？（謡に挑戦・共演・発表会）
- 2 部 ◆ストーリー説明（スクリーン使用）
 - ◆能楽鑑賞「舍利（しゃり）」

事後学習◆紙製能面の配布

- 3 部 ◆PTA、保護者、先生向け 能楽ミニ講座

※実施学校に併せて順序などは相談
公演時間（100分 休憩込）

派遣者数

出演者： 17名
事務局： 1名
舞台スタッフ： 6名
合計： 24名

タイムスケジュール（標準）

午後 1 時 30 分開演 公演の場合

9 12 13:30 15:00 17:00

到着・設営	昼食 休憩	出演者 楽屋入	開場	公 演	終演撤去 搬出	退館
-------	----------	------------	----	--------	------------	----

午前 10 : 30 開演 公演の場合

前日夕方 当日 9:00 10:30 12:00 14:00

到着・設営		出演者 楽屋入	開場	公 演	終演撤去 搬出	退館
-------	--	------------	----	--------	------------	----

実施校への協力依頼人員

1 名程

トラック搬入時の門の開閉、駐車場の指示、設営時に電源の確認や長机・椅子の所在確認等をお願い致します。

演目解説

1 部：能の紹介・体験

◆はじめての能楽

▶オープニング演奏 囃子方 4 人が出て、「早笛（はやぶえ）」の生演奏。

※まず、はじめに生演奏によるお囃子の迫力を肌で感じてもらうために、

囃子方による演奏（笛・小鼓・大鼓・太鼓）を行います。

「早笛」とは能の後半、竜神や鬼の登場の際に演奏され、リズムカルなテンポで

迫力もあるため、子供にも親しみやすく、出だして興味を引き付ける狙いです。



▶能について （DVD鑑賞）

能楽についてまとめたDVDをスクリーンで鑑賞

（能の成り立ち、能舞台、役割、面、装束等）



◆生徒と共演！能でつかうあれこれ！

（能面・小道具・能の登場人物紹介）

生徒の中から代表者数名を選出し、能面・小道具をつけ、登場人物になりきり舞台上で演者の体験をしてもらいます。

能楽師が生徒の着用している能面や小物の全体に紹介を行い、能をとりまく多種多様な人物や小道具について興味を促すことが目的です。



◆謡(うたい)ってなあに？(謡に挑戦・共演・発表会)

能「舍利」の曲中で抜粋した一部、または、普段子供達が歌う機会が多い開催校の校歌を謡(うたい・能独特の抑揚をつけたもの)にアレンジして謡います。(学校側で選択して頂きます。)

▶謡に挑戦 全校生徒で練習挑戦。

▶共演・発表会 全校生徒で能楽師と共演。

ワークショップで練習した生徒代表者に

能舞台上上がってもらい、披露してもらいます。



※現代人には馴染みが薄くなった謡を、開催校の生徒の誰もが知っている校歌にフシをつけ謡にアレンジします。または実際に能で使われている謡に挑戦することで、謡に親しみを持ち、演者は公演でどのように謡っているか着目してもらうようにします。身近な曲が謡になるとどのようなのか、また演者の立場を経験する事もでき、色々な視点で2部の能楽鑑賞を観ることが出来ます。

1部での狙い

ほとんどの子供達が初めての能楽鑑賞と思われる為、視覚・聴覚・体験など、様々な

角度から能楽を感じて楽しめるよう構成しました。

聞くだけではなく、想像して考えて体で感じる構成にすることで、

より能楽鑑賞への興味が繋がるようにしております。

※初めて能楽を鑑賞する子供が多いと予想される為、音と映像つきのDVDで理解を助けます。当能楽堂で毎年行っている、初心者と子供向けの公演で使用する自主制作DVDを用います。当能楽堂の公演用に作成しましたが、学校公演でも使用しており、わかりやすいと好評を得ております。

休憩

2部：能楽鑑賞



◆ストーリー解説

ストーリーを能楽師数名でイラスト等を利用し説明します。(スクリーン使用)

※子供たちに問いかけコミュニケーションをとり、想像力を引出しながらの説明です。

子供たちが楽しく聞くことのできるよう、工夫した内容になっております。

◆能楽鑑賞 「舍利」

特設能舞台での上演

特設能舞台での上演。能舞台は「張出舞台」と言い舞台が客席に突き出しており、一般的にホール等で行われる「額縁式舞台」よりも、より演者や囃子の迫力や緊迫感が客席に訴えかける様式です。

大槻能楽堂ではこの様式を重要とし、本物の能舞台を模した特設の舞台で、能の魅力をお届けします。

「舍利」は後場のクライマックス部分の上演。後半部分は動きに富み、主役二人の立回りがお子様の目にも面白い一曲です。

《あらすじ》

出雲の国（島根県）の僧が、唐の国（ちゅうごく）から渡って来たという仏像や仏舎利（仏様の骨を納めたもの）を見ようと、京都東山の泉涌寺にやって来ます。僧が仏舎利を拝んで感激していると、寺の近くに住むという男がやって来て、一緒に舎利を拝みます。そうしている内に、突然空が曇り、稲妻が光ると、男が鬼となり、「自分は足疾鬼（そくしつき）であり、ずっとこの仏舎利が欲しかった」と言い、仏舎利を奪い天井を蹴破って消え去ります。

鑑賞部分

僧は物音に驚いて駆けつけた寺の僧から、釈迦が死んだ際に足疾鬼という鬼が、釈迦に対する敬意と情愛から釈迦の歯を盗んで飛び去ったが、韋駄天という足の速い仏神が取り返したという話を聞きます。そして、二人が祈ると韋駄天が現れ、足疾鬼を追いつめ、ついに仏舎利を取り返し、力の尽き果てた足疾鬼は逃げ去るのでした。

事後学習（宿題） （紙製能面の配布）

（紙製能面の配布）

生徒達に帰宅後も再度“能”にふれる時間をもってもらうため、宿題として「家族に今日見て聞いた事を伝えて下さい」と配ります。

（作り方使用方法も説明。）

本来なら全校生徒に本物の能面をつける能面体験が実施出来れば良いのですが、時間等にも制限がある為、本物により近く製作した紙製能面を配り体験可能にしました。

実際に再度体験し、思い出し、伝えてもらう事により、この舞台鑑賞が心に残ると考えています。紙製能面が生徒の手元にあることで、自主的に舞台鑑賞を思い出し、生徒間やご家族に能楽鑑賞について、話をするきっかけになることで、伝統芸能を通じたコミュニケーションの

育成にも効果的と思っております。

（1年を通して能楽鑑賞を思い出していただくよう、大槻能楽堂・能楽美術カレンダーの配布）

3部：要望があれば

- ・ P T A、保護者の方々向け 能楽ミニ講座 質疑応答
能楽の楽しみ方講座や案内など



※公演だけで終了させるのではなく、帰宅後、家族で能楽鑑賞について話ができるように
とご要望があれば生徒の鑑賞終了後、別途開催したいと考えております。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

謡体験

体験：全校生徒で謡に挑戦します。

共演・発表会：練習した謡を全校生徒で、能楽師と共演します。

ワークショップを体験した生徒代表者に舞台上に上がってもらい
披露（舞台上での共演）してもらいます。
（舞台上に上がった時の謡をうたう作法も事前にレクチャー）

登場人物体験

代表者が能面・小道具などをつけ、登場人物となって能舞台に出てもらいます。舞台上で
実際に能の動作を能楽師からレクチャーを受け、また生徒が身に着けている物を全体に
説明するといった共演の形態をとっています。

公演全体を一方向的に聞くのではなく、質問等を取り入れコミュニケーションを
取り入れながら実施いたします。

児童生徒とのふれあい

謡体験・共演⇒ 能楽師と生徒全員一緒に謡を練習・発表。

ワークショップ参加者の中の代表者は舞台上で能楽師と一緒に発表。